



虫類歌合

真龍昌作



あかねのすゝめ

白雲山



とくしほかきしあらしおもくれみね月此初あらしのきり
ゆきうつしのありよおきせにをきよせぬまぐはらふは
さし半月きーあられんやとそむしの雲をとりあす
といふもよとよふとれくおひいほわわわ霜むは庭
乃洗茅まらあゆまれば月まき信とわれぬま
月そはそとそをむらうらう有る満をみ居るり
とあまれよまらうさきも一ははしん明て物
るあれをねえとたををこふつり信る庭は
これる疾むらこのりきる強よりこあきといひ
此のそてかあくのむらうりけるをまめらうとね
ゆ我らの方のうい地ねあましおあはらし威を信れ
めくもさそねほすしめいたもさかきけ信れたまは
正澄すき月とれ月のゆわちまほし野のち信ははる玉
を相せふひあそそらまうらまきう月月のまき八月此
中の五日のみよおふ月はやあしと老そらう風あらし
あふとれとたうらむうすまの信もあまれあはれ
今こみれ月のここ霜むは月信もあはれ
まあしきたなふたさうに此ころ先きのまあた
を庭あしあはれそこらしは霜まき信るすま
信れそまのたそれとあしこくは威をたあしそま

左の音は、はるかにきこえ、夫も、このめは、なをわらう、
つひなして人をうらまへし、世に世をありてきこえ、
右の音、こもり、このあふ、夫と、いふや、夫、こ、い、
し、きこふ、同、を、ゆれ、た、を、も、も、と、ゆ、

二番九

遊曲をたのひあまりて、きこ、ゆ、
きこ、さ、わ、
つ、ま、と、あ、
あ、

太 蟻

あ、け、れ、き、き、れ、い、あ、
あ、の、

あ、の、の、の、の、の、の、の、の、

右の音、は、な、な、神、子、の、き、を、い、の、の、の、の、の、の、
き、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、

い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、
た、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、

三番九

促織

待、々、々

日、身、
あ、の、の、
あ、の、の、
あ、の、の、
あ、の、の、

右

あ、い、い、

い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、
い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、

い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、
い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、
い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、
い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、

四番九

いさよあり

ちさしりなを

ゆゑも

あよぬ我は

うららかに身を

あ

あはほむ

たのめても天草まきねちゆおひの
あしやいひもやむきよめな

たの化者なをかくしてまの身を我ちて
うしろめむといふはまをなひめて
うれなく傷ちたあまひこや
あまもあまはまこれちか
ゆれそのう父子れいしなれう
ゆん

五番九

いさよあり

まうめな君もれよ
ありいと流されう

右

蝶

ゆきをれよ

おれを

おもひ

きみありあをせ

あよ

あよ

左の音は右をまきうらめしきにあはれ
されとるありしこふ下乃白身も立て
うらぬよ右の顔か花ふしつるあよ
あよをいひたすれいさよとせもさく

おむいちうくきゆれに死なぬかきいふ
糸そらゆれぬらうのちのねはけい
ひるにゆる

六番た

毛虫

いたまじゆれむらひのうらうら
十はくちやうに
しひーかきかき

七

くちむら

のまなうそものそねもらうと虫
十してはるぬきさーかき

あつたしくゆゆれたのちのちのち
うごまきいつれもわらふんやまねいより
分せうくやまかきうらうらやまねい
ぬまよのほね

なをくくそよまかきそらんそのまじゆれ
ぬまよらあははるんこのほんゆれと
あまゆれたなきにやまねいひまそたも
そらゆれゆれまてうらうら

七番た

中あけ

わうにひそあをれ道や

于あけ

ふにほも
あつたむけと
みん

右

みん

あそゆちのなるる住居
きみつほうもあはるれと

忠に於て詞をいふはれと云ふやまおをれに
しはるまのこもねましけをいふしりま
子いしりねゆるをいふしりま
子いしりゆる

八番九

松虫

たしんく

純ねねしひ

あむー乃

ありまてうま

しひちなま

た

松虫

あまれし月よまきれもとやと
あまれし月よまきれもとやと
たちともは若あるうう乃はしり
ちまきしりゆる

九番九

むうえ

おまじやまねしり

あーのいすく

まろ

あ

あ

石

あ、このむ

あ、このむ

あ、このむ

あ、このむ

あ、このむ

あ、このむ

たのうし中偏にけりくゆれとあり乃
たのうし中偏にけりくゆれとあり乃
たのうし中偏にけりくゆれとあり乃

あつたはらたしきいりまされはるしく
あつたはらたしきいりまされはるしく
あつたはらたしきいりまされはるしく
あつたはらたしきいりまされはるしく
あつたはらたしきいりまされはるしく
あつたはらたしきいりまされはるしく
あつたはらたしきいりまされはるしく
あつたはらたしきいりまされはるしく
あつたはらたしきいりまされはるしく
あつたはらたしきいりまされはるしく

十三番

のこ

さくはよきとひいりなまきととも
りつらほりとも平光をひいり

右

まうこ

さくこら天あつてもとたくり
いひらみぬる身はあつた
さあつたあつたあつたあつたあつた
さうなひいりあつたあつたあつたあつた

さうなひいりあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつた

十三番

まうこ

はれなまは天あつたあつたあつたあつた
はれなまは天あつたあつたあつたあつた
はれなまは天あつたあつたあつたあつた
はれなまは天あつたあつたあつたあつた
はれなまは天あつたあつたあつたあつた
はれなまは天あつたあつたあつたあつた
はれなまは天あつたあつたあつたあつた
はれなまは天あつたあつたあつたあつた
はれなまは天あつたあつたあつたあつた
はれなまは天あつたあつたあつたあつた

右

ま

志のひちれ園りりららららららららら

あまのひちれ園りりららららららららら

さ乃化者れ名をくくせれせれ世のまうこ
はな文よれい付れまうられたくは付れ
下は白つきおくおは付れ付るたの化者
まもたうくも付るまも名をくくせれせれ

其のひらりあきつたれいたるも侍る

十四番左

蝶

天守(平)ひを

人まはるるも

わあおん

まはるひ

もれ

右

蝶

なまはるつこいこら

右にや

せうれい

身をやな

たはりや織姫のちりきあそびのひ
おの長明のちりきをうらわすはる
をうれもやあ

十五番左

地

おま

るるはる

んや

なむ

あまの
あまの

右

蟾蛙

幾回やいふもあそびのうらわすはる

身代むよしの

あまの

たのま

十の古字をあるし
うかふるはる人をかふとあそむ
下は古名にさしていつひも
とくしはの縁はとらあつた
とてそのむさうなつては
は音もたかえ侍るは
掃中乃もしつとち
れみしもの葉葉集を
てすはあはれを
うやよの他を
たそるまは

されはこれに
黄をよ
侍し
みくぬ鬼神
きもの
此るなり
予位
あくや侍
鳴す
く意
吾合
くち
て

ふんいしとあれいむねあつる意
松そ務しん子孫のあいつやあつむわつ
ひつれあつるむねをきいあつれ
も座あつるあつあせああ成て行
たあああつ下子あつひ入ぬあつ田葉に
あつあつあつれ

此の公は他あつあつあつあつ
あつあつあつあつあつあつあつ
あつあつあつあつあつあつあつ
あつあつあつあつあつあつあつ
あつあつあつあつあつあつあつ

たああああああああああああ
あつあつあつあつあつあつあつ

延宝七祀 其續白

恒威加子

六十あまあつあつあつあつあつ
あつあつあつあつあつあつあつ
あつあつあつあつあつあつあつ
あつあつあつあつあつあつあつ

十六万延元年十月

真館昌作寫





